

U.S. Indicators

発表日: 2023 年 4 月 10 日(月)

米国 3 月雇用統計は労働市場の堅調を示し利上げ継続へ

～FF 先物は 5 月 FOMC での 25bp の利上げ織り込みを高めた～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

23 年 3 月の非農業部門雇用者数（事業所調査）は、前月差+23.6 万人（2 月同+31.1 万人）と減速したが、市場予想中央値（ブルームバーグ集計）の前月差+23.0 万人（筆者予想同+19.8 万人）を上回った。しかし、1、2 月合計で 1.7 万人下方修正されたことを考慮すると実態は市場予想よりもやや弱い内容だったほか、民間部門は前月差+18.9 万人（2 月同+26.6 万人）と減速し、市場予想中央値（ブルームバーグ集計）の前月差+21.8 万人（筆者予想同+18.8 万人）を下回った。また、平均時給は前月比で+0.3%（2 月+0.2%）と加速したが、市場予想中央値の+0.3%と一致したほか、前年同月比では+4.2%（2 月同+4.6%）と鈍化し、市場予想中央値の+4.3%を下回った。さらに、労働投入量が前月比▲0.1%と 2 ヶ月連続で縮小した。

一方、失業率は 3.5%と前月の 3.6%から 0.1%p 低下し、市場予想中央値（ブルームバーグ集計）の 3.6%（筆者予想 3.7%）を下回った。

3 月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が減速したほか、平均時給が前年比で大幅に低下するなど、労働市場の逼迫感が徐々に緩和していることが示された一方、非農業部門雇用者数が高い伸びを維持したうえ、失業率が再び低下するなど、労働市場が堅調さを維持していることを示した。F F 金利先物が示す 5 月 2、3 日の F O M C での 25bp の利上げの可能性は 71.2%に上昇し、据え置きの可能性は 28.8%に低下した。

米国雇用統計

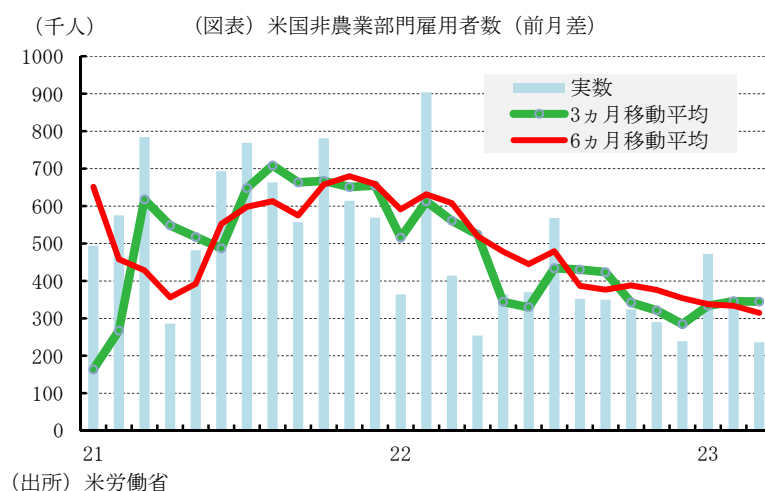
		失業率	非農業部門雇用者数							平均時給		労働時間	労働投入量	
			全体	製造業	建設業	サービス関連業				前月比	前年比		前月比	年率※
						全体	小売業	狭義サービス	政府					
		前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差					
四半期	19.4Q	3.6	149	▲7	▲8	172	6	111	26	0.8	3.2	34.3	0.0	0.1
	20.1Q	3.8	▲273	▲27	4	▲244	▲38	▲268	39	1.0	3.2	34.3	▲0.1	▲0.2
	20.2Q	13.0	▲4441	▲248	▲123	▲4038	▲330	▲2914	▲478	3.9	6.6	34.5	▲12.4	▲41.2
	20.3Q	8.8	1380	41	29	1317	186	858	171	▲0.8	4.8	34.7	6.5	28.6
	20.4Q	6.8	238	33	33	173	40	126	▲83	0.8	4.9	34.8	2.1	8.6
	21.1Q	6.2	618	24	13	582	39	402	68	1.0	4.9	34.8	0.9	3.6
	21.2Q	5.9	487	2	2	481	8	379	41	1.2	2.3	34.9	1.2	5.0
	21.3Q	5.1	663	54	24	584	16	437	25	1.4	4.5	34.8	1.3	5.2
	21.4Q	4.2	655	49	41	560	20	430	▲6	1.5	5.3	34.8	1.6	6.5
	22.1Q	3.8	561	44	33	481	59	317	6	1.4	5.6	34.7	1.0	4.1
	22.2Q	3.6	329	34	19	270	▲25	219	12	1.1	5.6	34.6	0.7	2.8
	22.3Q	3.5	423	33	16	373	12	284	42	1.2	5.3	34.6	0.8	3.3
	22.4Q	3.6	284	19	21	240	▲8	203	31	1.1	4.9	34.5	0.5	1.9
23.1Q	3.5	345	3	10	330	16	223	75	0.9	4.4	34.5	0.6	2.5	
月次	2208	3.7	352	31	8	315	37	200	46	0.3	5.4	34.5	▲0.1	2.7
	2209	3.5	350	26	16	306	▲11	291	6	0.3	5.1	34.6	0.6	3.3
	2210	3.7	324	37	17	267	▲6	193	25	0.4	4.9	34.6	0.2	3.0
	2211	3.6	290	14	19	249	▲46	260	62	0.4	5.0	34.5	▲0.1	3.1
	2212	3.5	239	6	26	203	27	156	7	0.4	4.8	34.4	▲0.1	1.9
	2301	3.4	472	11	26	431	22	252	119	0.3	4.4	34.6	0.8	1.8
	2302	3.6	326	▲1	12	315	41	225	60	0.2	4.6	34.5	▲0.1	1.6
	2303	3.5	236	▲1	▲9	243	▲15	193	47	0.3	4.2	34.4	▲0.1	2.5

3月の非農業部門雇用者数（事業所調査）は、前月差+23.6万人（2月同+32.6万人）と減速した。政府部門が前月差+4.7万人（2月同+6.0万人）と鈍化したほか、民間部門が前月差+18.9千人（2月同+26.6万人）と減速した。

民間では、需要が強く人手不足の続く医療・社会援助が前月差+5.08万人と最大の増加となったほか、新型コロナウイルスのワクチン接種進展、暖冬等による需要の強まりで、飲食店が前月差+5.03万人と高い伸びとなった。また、専門・技術サービス（前月差+2.57万人）、芸術・エンターテインメント・余暇（同+1.62万人）、教育サービス（同+1.46万人）、その他サービス（同+1.1万人）、輸送・倉庫（同+1.04万人）、卸売業（同+0.67万人）、金融・保険（同+0.66万人）、情報産業（同+0.6万人）、宿泊（同+0.52万人）が増加した。

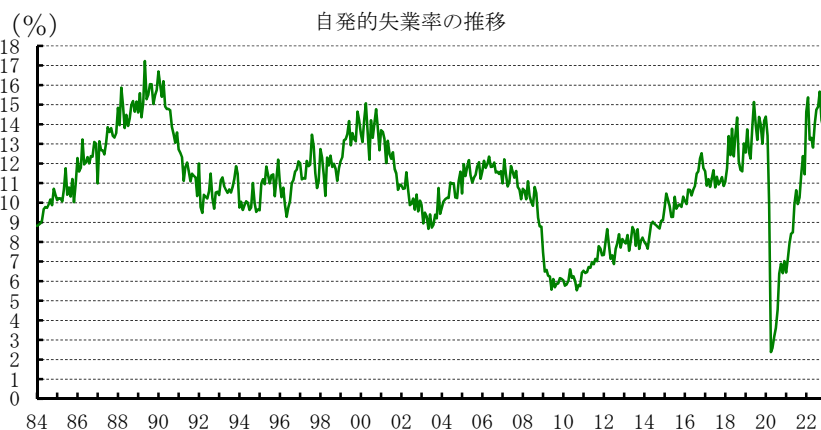
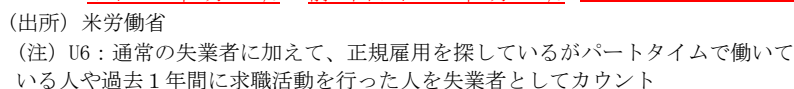
一方、小売業（前月差▲1.46万人）、派遣業（同▲1.07万人）、建設業（同▲0.9万人）、不動産・リース（同▲0.72万人）、製造業（同▲0.1万人）が減少した。米中堅銀行破綻の影響で、商業銀行は前月差▲0.11万人減少した。

月次での変動を均して基調をみると、非農業部門雇用者数は3ヵ月移動平均で前月差+34.5万人（前月同+34.6万人）、6ヵ月移動平均で同+31.5万人（前月同+33.4万人）と減速傾向を辿っているものの、どちらの数値も堅調な増加ペースの持続を示している。

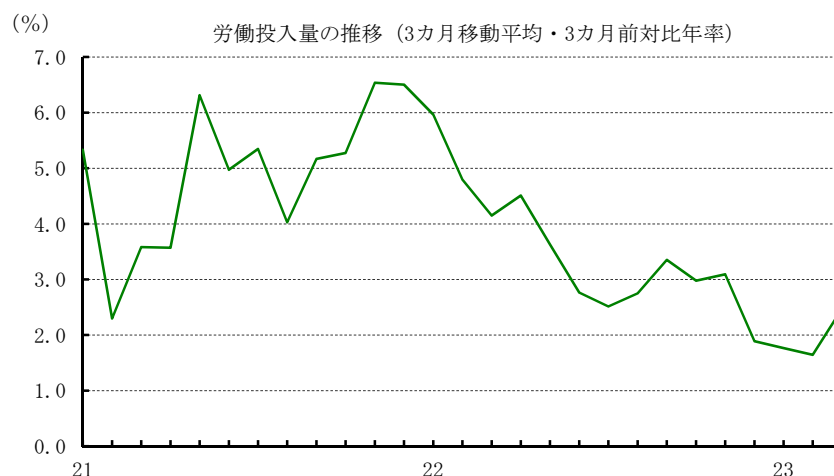


3月の失業率（U3、家計調査）は、3.5%（前月3.6%）と低下し、自然失業率と推測される4.0%を下回る低い水準での推移を続けている。労働参加率は62.6%（前月62.5%）と上昇したが依然として低い水準にとどまり、労働市場逼迫の一因となっている。

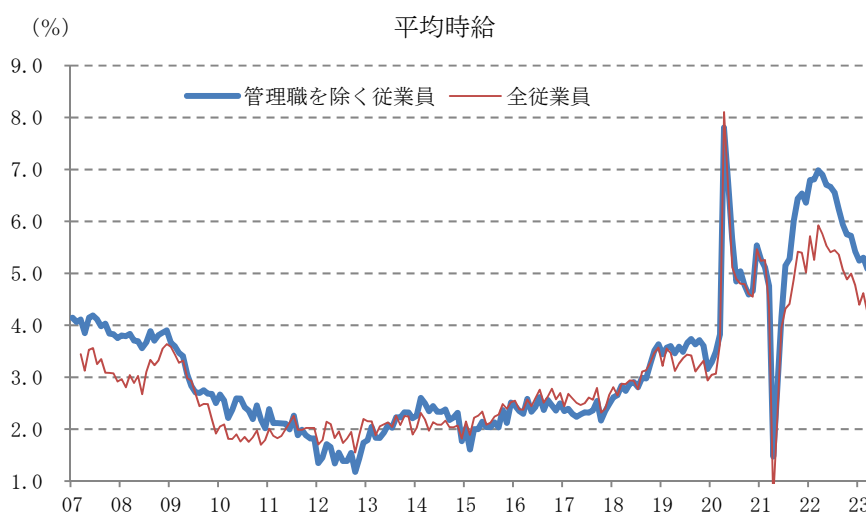
また、“現在は職探しをしていないが過去1年間に求職活動を行った人”と“正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人”も失業者を含む広義の失業率（U6）は、6.7%（前月6.8%）と低下し依然低い水準にとどまっている。さらに、自発的失業率は14.5%（2月15.0%）と低下したが高い水準にとどまっており、依然労働環境が良好なことを示している。



労働投入量は、前月比▲0.1%（2月▲0.1%）と2カ月連続の縮小となったが、3カ月移動平均・3カ月前対比年率で+2.5%（2月同+1.6%）と上昇しており、労働需要の鈍化ペースが緩やかなことを示している。



このような中、平均時給は前月比で+0.3%（前月+0.2%）と加速したが、前年比では+4.2%（2月+4.6%）と鈍化傾向を辿っている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。